

Book Review



Dr. 藤本紙上セミナー

口腔の老化・口腔ケア・ 摂食嚥下障害のキホン

リハ・栄養・口腔の三位一体に向けて

藤本篤士 著

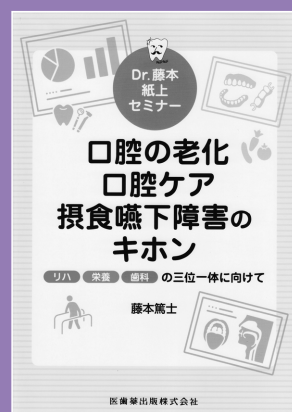


Reviewer

野原幹司 Kanji Nohara

(大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座)

B5 判, 152 頁
2 色
定価 4,950 円
(本体 4,500 円+税 10%)
医歯薬出版刊



私の個人的な話になるが、藤本先生との出会いは 20 年ほど前に学会の教育講演を聴いたのが初めてだと思う。その講演内容に非常に感銘を受け、ずうずうしくも勤務されている病院まで見学に行き、機会があれば先生の講演を聴講させてもらっている。そのような師ともいべき藤本先生のご著書の書評を書かせてもらうことになるとは身に余る光栄だが、本書は私が感銘を受けた数々の attractive なセミナーのエッセンスが含まれており、「歯科医療」ではなく「医療としての歯科」を学ぶには最適の書となっている。

本書は大きく Part 1~4 に分かれています。

Part 1 は「口腔と老化と日本の医療制度」であり、まさに“歯科医療”ではなく“医療の中で歯科ができること・やるべきこと”が書かれている。換言すると「どうすればよい歯科治療ができるか」ではなく「どのような歯科治療をすれば全身の健康に寄与できるか」の手がかりが散りばめられている。医

療全般の視点から歯科を俯瞰的に、客観的に見るには必読の Part であろう。

Part 2 は「口腔ケアのキホン」である。“基本”と題されているものの、エビデンスと知識、そして何より臨床経験に裏打ちされた論の展開は圧巻であり説得力がある。方法論だけでなく“考え方”が述べられており、要介護高齢者から周術期患者の口腔ケアまで幅広く応用可能な内容となっている。

Part 3 は「摂食嚥下障害のキホン」となっているが、内容としては咀嚼から嚥下まで必要十分な範囲が網羅されており、次に続く Part 4 の序章的役割を果たしている。

Part 4 は本書のメインともいえる「摂食嚥下障害症例集」である。症例集というと、とすると寄せあつめ集になりがちであるが、本書では、その治療過程だけでなく臨床的思考、苦労した点、臨床的迷いや躓きまで記載されており、われわれが未知の症例に遭遇したときのヒントがふんだんに盛り込まれている。藤本先生の 40 年近い臨床経験から導かれる Clinical Pearl

が詰まっているこの症例集を読むためだけでも、本書を手にする意義はあると思う。

全体を通して、構成もわかりやすく、Tips や Topics も挿入されており、非常に読みやすい。論文も適度に引用されているが、引用するだけでなく、そこに藤本先生の臨床経験に基づく解釈や主観が述べられているのも読みやすいポイントとなっている。この解釈や主観が述べられるところに藤本先生の臨床家としての自信と矜持が感じられるが、これこそが本書の“売り”であり、本書を類書なきものになっているところであろう。

…といろいろ書いていって何だか「もう書ききったから本は書かないよ」という藤本先生の声が聞こえてきそうなので…。まだまだわれわれ後輩歯科医師の道標となるべく臨床医・藤本篤士先生でいて下さい！ 第 2 弾、第 3 弾を期待しています！ という藤本先生へのお願いを込めて書評を閉じたいと思います。